

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の五訓に加えて事業所独自の理念を作り、職員会議での話し合いを経て、共有実践に努めている。	今年度新たに事業所理念を職員参画のもとで策定し、法人の福祉事業5訓・基本方針とともに、地域密着型サービスの意義・目的を明文化している。福祉事業5訓・事業所理念を事務所への掲示し、朝礼時に唱和する等、職員の共有と意識付けに努めている。福祉事業5訓・基本方針の実践に向け、事業計画(部門別実行計画)・キャッチフレーズを策定している。管理者は半期ごとに事業計画の実践状況を振り返り、理念実践に向け具体的に取り組んでいる。今後、職員と共に事業所理念の実践状況を半期ごとに振り返る計画である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一回、野菜市・オアシス茶話会(県に登録の認知症カフェ・介護無料相談会を実施して、地域の一員として活動をしている。	事業所前の菜園での収穫時、野菜市・オアシス茶話会開催時等に、利用者が地域住民と交流する機会を設けている。また、2地区の自治会に加入し、通常は桜祭り等地域イベントに参加している。(現在は休止している。)花見ドライブ等の外出レク・個別外出・計画に取り入れた買物同行等、可能な範囲で地域との交流を継続している。また、トライやるウィークや演奏・ハーモニカ等の地域ボランティアの受け入れを再開し、新たに、サマーボランティア2023の中学生を受け入れている。介護相談・法人による介護セミナー(Zoom)の開催や、ほっとかへんネット猪名川への参加を通じ地域の課題解決に努める等、地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記のオアシス茶話会(認知症カフェ)を通じて支援を実施している。		

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、委員の方を招いて、対面方式で実施している。利用状況・行事・事故ヒヤリハット及び追加事項の報告し、それに対する意見を運営に活かしている。	利用者、家族、地域代表(自治会長)・町職員・知見者(NPO理事)・事業所職員3名等を構成委員とし、令和4年11月から、対面方式で2ヶ月に1回開催している。開催時には、「活動状況報告書」に沿って、利用者状況、ヒヤリハット・事故状況、行事等特記事項の詳細資料を配布して報告し、意見・情報交換、質疑応答を行い、意見・地域情報等を運営に活かすように努めている。議事録の公開用ファイルを玄関カウンターに設置し公開している。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	猪名川町の担当者が、事業所の運営推進会議の委員である。また管理者が町の地域包括運営協議会の委員でもある。また介護事業所連絡会を通じて、連絡を密に協力関係の構築に努めている。	運営推進会議への町職員の参加や、管理者が町の地域包括運営協議会委員を担う等、町との連携がある。また、町の事業所講習会・ケアマネ講習会・川西市とのつながりノート連絡会・小規模多機能介護事業所連絡会等への参加を通じ、情報共有や協力関係を構築している。定期的に町から派遣される介護相談員の受け入れを今年度より再開し、利用者支援に反映してる。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、毎年の個別研修や毎月の職員会議での事故ヒヤリハットの振り返りを通じて、スピーチロックを含む身体拘束ゼロへの取り組みを継続実践している。	職員会議での事故・ヒヤリハット事例の振り返りを通じて、スピーチロックを含む行動制限になっていないか検討を行い、身体拘束をしないケアを実践している。昨年度は、eラーニングによる「身体拘束」研修を実施し、「研修報告書」を提出し研修内容の理解を図っていた。今年度は、職員会議時に、情報の公表必須「研修計画」に沿って座学による開催に変更し、10月実施を計画している。玄関は、自動ドア方式で施錠せず、利用者が閉塞感を感じないように配慮している。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、毎年の個別研修や毎月の職員会議での事故ヒヤリハットの振り返りを通じて、事例検討を実施して防止に努めている。	虐待防止について、上記の方法で8月に研修を実施している。研修欠席職員には、資料配布と個別説明により共有・周知を図っている。また、3月に「不適切ケア」研修を実施するとともに、個別「eラーニング」研修の必須項目に盛り込み、意識向上を図っている。気になる言葉遣いや対応があれば、都度助言を行い、職員会議でも注意喚起している。法人としても、ストレスチェック・アンケート実施・相談窓口の設置等、相談体制の整備・早期対応により、職員のストレスや不安等がケアに影響しないように取り組んでいる。送迎・訪問サービス・モニタリング訪問時等に家庭状況に留意し、必要に応じてサービス調整を提案する等、自宅での不適切ケアの早期発見・未然防止に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の個別研修を通じて、権利擁護、特に成年後見制度について、グループワークを実施して、知識の吸収活用に努めている。	令和5年7月の職員会議時に、厚労省資料を用いて成年後見制度についての研修を実施し理解を深めている。近年、成年後見制度を利用している利用者はないが、今後、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者や介護支援専門員が窓口となり、町や地域包括支援センター等関係機関と連携して支援する体制がある。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について、利用者やご家族に時間を割いていただき、説明に努めている。	見学希望があれば対応し、パンフレットや「見学用写真」冊子で、サービス内容・個々のニーズに合わせた利用料の概算・インスタグラムの活用・行事食・レクレーションの様子等を分かりやすく工夫して説明している。サービス利用の希望があれば体験利用にも対応している。契約時には、契約書・重要事項説明書等の読み合わせを行い、質問等に答えながら丁寧な説明に努め、文書で同意を得ている。契約内容の改訂時は、新旧対照表を作成し訪問時に説明の上書面で同意を得ている。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議委員メンバーに本人代表及び家族代表枠を設けて、意見をいただいている。また他の利用者・家族についても個別に意見をいただくように努めている。	利用者との日ごろの会話・連絡帳・送迎時・訪問サービス時・モニタリング訪問時等に、利用者・家族の意見把握に努めている。送迎時・訪問サービス時等に把握した意見等は管理者や介護支援専門員に報告があり、申し送りノート・朝礼時等に共有を図っている。サービス利用等の個別の意見には、個別に対応している。連絡帳・モニタリング訪問時等に把握した意見等は「支援経過記録」に残し、支援や計画に反映している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、意見・要望を外部者へ表せる機会を設け運営やサービスに反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議又は個別に職員から意見を聞き、運営に反映するように努めている。	毎月、対面による職員会議を開催している。会議前に、職員から意見が出やすいよう「募集課題」により議題を収集している。会議では、管理者からの報告、募集課題の検討、利用者個々の情報提供と個別カンファレンス、事故・ヒヤリハットの振り返り等を行っている。管理者は日々のコミュニケーションづくりに努め、定期的や随時に面談の機会を設けている。法人として、アンケート実施・相談窓口の設置等で業務・運営等に関する提案・意見等を把握できるよう取り組んでいる。また職員の係担当制を取り入れ、職員の意見を実践しやすいよう工夫している。日々の検討事項は管理者が集約し、検討結果を「申し送りノート」・朝礼等で共有し実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規程で、達成度を評価し向上心が持てる職場環境・条件の整備に努めている。		

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近年の社会情勢から外部研修はZOOM受講が多数を占めるが、毎月二つの外部研修を受講している職員が多数いる。内部研修のシステムもネット受講や職員会議時の実研修と多種ある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の事業所講習会・ケアマネ講習会・隣の川西市とのつながりノート連絡会・有志による小規模連絡会・ほっとかへんネット猪名川を通じ交流機会は多い。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声にしっかりと耳を傾け、安心いただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声にしっかりと耳を傾け、安心いただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りから最優先の支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話・コミュニケーションを密にして、暮らしを共にする者同士の関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話・コミュニケーションを密にして、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係性作りに努めている。		

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での暮らしも大切に考え、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の特性として、多くの利用者同士が馴染みの関係にあり、配席・利用日の調整等で馴染みの関係継続を工夫している。今年度より、家族・親戚・友人・知人等との面会制限は解除し、家族との電話の取次ぎやスマホの使い方のサポート等馴染みの人との関係継続の支援に努めている。個別の外出支援として、家族の了承を得ながら馴染みのスーパーへの買い物等馴染みの場所との関係再開を企画している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が繋がり、会話が出来るような食席配置を職員が検討しながら支援に努めている。レクリエーション活動や作業療法としての洗濯物たみ・食器拭き・野菜収穫などを共同で行っている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談にも応じている。具体的なサービスの種別・利用の仕方の案内も状況に応じて実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向をまずケアマネジャーが聞き取り、介護職員で実践し、事例検討を行い、アセスメントを実施している。本人本位を最優先としている。	利用相談時に介護支援専門員が家族から聞き取った情報を「フェイスシート」生活歴・生活状況欄に記録し、家族記入の「生活史アセスメント」趣味欄等も共有しながら、利用者の思いや過ごし方の希望・意向を、サービス利用に反映できるよう取り組んでいる。利用開始後のコミュニケーションで把握した思いや意向は、「気づき」・「申し送りノート」で共有し、個別支援計画等に反映している。モニタリング訪問時の思いや意向等は「モニタリングシート」に記録し、計画や個別レクリエーション等の支援に反映できるよう取り組んでいる。意思の疎通が困難な場合は、日ごろの反応や様子から把握し「気づき」に記録し共有している。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に生活歴の聞き取りを行い、認知症で昔の記憶が遡れないかたでも、家族を通じて、本人に寄り添った支援が行える情報を取得している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジャーの毎月のモニタリングや、連絡帳でのやりとり、不明な点は電話確認を実施して、現状把握している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの実践のため、サービス担当者会議を実施している。また介護職員間でも利用者のカンファレンスを実施し、介護計画に反映させている。	「フェイスシート」「生活史アセスメントシート」を基に、初回の居宅サービス計画を介護支援専門員が、居宅サービス計画を基に個別介護計画を介護職員が作成している。各計画書・生活史アセスメントシート等のファイルをフロアに設置して、利用者個々の計画内容が理解できるよう努めている。個別介護計画に基づいたサービス実施はシステム内に記録している。訪問については訪問日誌に記録している。毎月の職員会議で、利用者個々のカンファレンスを実施するとともに、居宅介護計画について毎月モニタリングを実施し、モニタリングシートに記録として残している。大きな変化がなければ、基本的に6ヶ月毎に居宅サービス計画を見直し、それをもとに個別介護計画を見直している。居宅介護計画の見直し時には、フェイスシート(アセスメントシート)での再アセスメントと、モニタリング結果をもとに、家族・本人・介護支援専門員・福祉用具事業者等関係者参加のもとでサービス担当者会議を開催し、利用者・家族の意向や関係者の意見を計画に反映している。	・個別介護計画についても、定期的にモニタリング・評価を実施することが望まれる。 ・居宅介護計画と個別介護計画の連動性を明確にする工夫が望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼのを利用し、ケースに記録を記載している。気付きは紙ベースで記入して、各自閲覧、振り返りを実践して、介護計画にも活用している。		

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援を実施し、柔軟なサービスを実施している。もとより小規模多機能柔軟性に富むが、訪問を活用し通い以外の日における在宅生活支援に積極的に取り組んでいる。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が続く中であるが、本年度より面会や、ボランティアの受入れを再開している。月に一回のボランティア受け入れを目指している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族と通院・訪問医による往診・介護タクシーでの大病院受診等があり、内科・外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・歯科・精神科等と各医療機関と連携体制・信頼関係を構築している。	利用開始時にかかりつけ医を確認し、「緊急連絡表」「フェイスシート」で把握している。必要と希望に応じて、歯科の訪問診療が受けられる体制がある。通院は家族の同行を基本としているが、必要に応じ、事業所が送迎、同行等を支援している。配置看護師が日々の健康管理を行い、かかりつけ医と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。通院による受診結果等は家族から連絡帳・電話等で情報提供を受け、「看護師ノート」に記録として残し、職員には「申し送りノート」で情報伝達している。薬事情報は緊急時利用者名簿ファイルに保管している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の勤務日が多く、恵まれた事業所であるメリットを活かし、連携して利用書の支援を実施している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や受診時は、看護職員がサマリーを書いており、医療介護の連携がスムーズに実施出来ている。病院には定期的に営業・研修参加をして、信頼関係の構築をしている。	入院時は、看護師から「看護サマリー」等で利用者情報を提供している。入院中に家族から連絡を受け把握した情報は「支援経過記録」に記録するとともに、朝礼・「申し送りノート」で共有している。退院前カンファレンスが開催されれば介護支援専門員・管理者等が参加し、カンファレンスの内容を朝礼・「申し送りノート」で共有している。退院時に「看護サマリー」の提供を受け、退院後の支援に活かしている。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小規模多機能は看取りもできるが、本人や家族の意向を最優先としており、入院や施設入所が円滑にできるよう医療介護の連携に努めている。	事例はないが、事業所として、看取り希望があれば対応する方針がある。重度化を迎えた段階で、終末期のあり方について、家族等の意向確認を行い、意向に沿って支援する仕組みがある。在宅生活が困難となった場合は、家族の意向に沿って病院や入所施設へ円滑に移行できるよう、看護サマリーの提供等医療・介護の連携を図り、移行支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事業所は突発事項が良くおこるものとして、想定範囲内で収まるように、常に情報伝達・カンファレンス・訓練を怠らないよう努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に既定の消防訓練、避難訓練(地震・風水害)を実施している。ハザードマップを掲示し災害に対する意識を高めるように努めている。法人としてBCPを策定している。	令和4年度は、1月に地震避難訓練、2月に火災に対する夜間想定総合訓練を実施している。令和5年度は4回訓練実施を計画し、9月に風水害訓練、今年度中に夜間・日中想定火災時対応訓練と地震時対応訓練を行う計画である。訓練実施後は実施報告書を作成し、回覧・職員会議等で訓練に参加できなかった職員も問題点・反省点等を共有し次回訓練に反映させる予定である。毎年、年間研修計画に「非常災害時の対応について」の研修を位置付けており、今年度は9月の実施を計画している。飲料水・食料・消毒液等備蓄品を管理者・係担当職員が管理している。法人としてBCPを策定している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを常に心掛け、お一人お一人に寄り添った介護に努めている。宿泊室は個室となっており、泊り利用時のプライバシー保護も実施している。	プライバシー保護・認知症ケア・不適切ケア等の研修を通じて、利用者の人格尊重、不適切な言葉かけや対応について学ぶ機会を継続的に設けている。接遇等について問題があれば、管理者が職員会議の中や個別に、意識付け・注意喚起を行っている。写真・映像使用に関し、ホームページ・インスタグラム・公式ライン・掲示等での使用の可否について契約時に確認の上、文書で同意を得ている。町の広報誌等への掲載については都度再確認し、個人情報・プライバシーの適切な管理に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声で意思表示が出来る方はもちろんの事、発話が出来ない方や、認知症から意思疎通が難しい方でも、日常の様子観察をしっかりと行い、本人の思いや希望に寄り添い、自己決定をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを行い、画一的ではなく本人の一日のペースに寄り添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や本人の希望に沿ったおしゃれが出来るように努めている。髪が整っていない等の場合に、整容をサッとできるように職員も努めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業療法も兼ね、片づけとしてお皿拭きと一緒に毎日実施している。	米・野菜等はJA、他の食材は地域から調達し、調理専従職員が当日の献立を立て、手作りの食事を提供している。利用者個々の当日の状況や体調等に応じて、個別の食事形態に対応している。敬老の日等には、調理専従職員と介護職員が相談して献立を考え季節感やイベント食を採り入れ、食事の変化が楽しめる機会を設けている。作業療法を兼ね、可能な利用者が食器拭き等に参加できるよう支援している。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体がJAであり、季節に合った旬の食材を全て手作りで調理して提供している。個別に刻み食や禁食の対応も実施している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを、全介助・一部介助・自立の形態で実施している。半期に一度口腔栄養スクリーニングを実施している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄支援を実施している。おむつの利用有無、尿漏れパッドの利用有無、介助の必要性について、カンファレンスを行い排泄の自立に向けた取り組みを実施している。	排泄の自立度・留意点等は、個別介護計画で共有している。排泄の自立度が高い利用者が多く、昼間は、トイレでの排泄・自立が継続できるよう支援している。排便については「健康管理表」に記載し、排泄状況はシステム内に入力し、排泄状況・排泄パターンを把握している。検討事項があれば、随時検討して決定事項を朝礼や申し送りノートで共有し、また、職員会議でも検討し、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。声掛け・直接的な言葉遣い等に留意し、プライバシーや羞恥心への配慮に取り組んでいる。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	脱水防止や排便促進も兼ねて、水分を促している。水分は記録を残し排便コントロールとして役立てている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	小規模多機能として、入浴が自立の方は不在である。理想ではあるが、職員配置や利用枠のため、曜日や時間帯の指定無しは現状は出来ていない。しかし、ゆったりと入浴いただける環境作りには努めている。	個別の配慮事項等は、個別介護計画で共有している。自宅での入浴状況・体調や意向等を確認しながら、入浴予定表に沿って週2回を基本とした入浴支援を行っている。入浴状況は、健康管理表とシステム内の記録で把握している。一般浴槽での個浴で、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援しているが、当日の体調・気分等に応じて、シャワー浴等個別に対応している。入浴拒否が強い利用者はなく、基本的に同性介助で支援している。ゆず湯・しょうぶ湯等、入浴がより楽しめるよう支援している。	

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	宿泊室は個室となっており、プライバシー保護に努め、安心してお休みいただける環境整備に努めている。昼寝希望の方には、ベッドを提供して、お昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎に服薬管理を行い、看護職員指示のもと適切に服薬介助できている。薬の効き目によっては看護職員を通じて、家族・薬局・医師と連携を摂り、調節を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲食物から、新聞テレビ・作業療法の内容などについて、本人の意向を重視して実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、近隣への散歩を実施している。車椅子や杖の方は、外出機会も少ないことから、季節毎を目途に自然豊かな町内へ外出レクの実施に努めている。ニーズにより、喫茶レク・飲食レクも実施している。	近隣への散歩や、桜・ひな人形見物等季節に合わせたドライブ等の外出を継続し、季節ごとの自然豊かな町内へ外出レクを再開している。また、訪問サービスとして計画に取り入れ、買い物同行を支援している。個別の希望に沿った喫茶レク・外食レク等の再開を企画している。眺望の良いウッドデッキでの外気浴や気分転換、菜園での野菜の収穫等、戸外で過ごす機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物支援も訪問の一環として実施しており、本人の意向に応じて支援している。事業所前で行う事業所主催の野菜市では買物を楽しむ利用者も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	泊り利用者に特に多いが、家族との電話の取次ぎを実施している。本人所持のスマホの使い方のサポートも要望があれば実施している。		

オアシス猪名川小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からウッドデッキ・猪名川の本流が眺められる自然豊かで季節感を充分に感じることが出来る環境を活かした空間づくりに努め、心地良さの提供にも努めている。	窓やウッドデッキから、猪名川の本流が眺められ、自然豊かで季節を感じる環境である。制作レク担当職員が利用者と一緒に制作した季節に応じた作品を玄関に飾り、ダイニングにも利用者の月毎のぬり絵や季節に応じた作品を飾り、季節感を大切にしている。配席の工夫、テーブル席・複数人掛けソファの設置等、思い思いに居心地よく過ごせる環境を整備している。併設キッチンで手作りの食事が調理され、家庭的な雰囲気が感じられる。作業療法として食器拭き・下膳・洗濯物干し・洗濯物たたみ等の家事に参加できるよう支援し、毎日のレクリエーション・菜園での園芸活動等も活用し、心身の機能低下予防に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファでの座席を、各利用者が心地よく過ごせるように努めている。お話が好きなグループ・一人が好きな方等の調整を実施している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室は個室でプライバシーに配慮した作りとなっている。家からテレビやDVDを持ち込む方にも対応している。	宿泊室は通常の7室、静養を兼ねた2室の計9室が準備されている。ベッド・3段ボックス・寝具等を設置し、通常は衣類等の日用品、また、ポータブルDVD・スマホ等を持ち込む利用者もあり、安心感のある環境で居心地よく過ごせるよう支援している。夜間の見守り・安全確保等、利用者の状況に応じて部屋の配置を工夫し、早期対応や利用者の安心感に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭いフロアではあるが、利用者の歩行ルートが安全になるように努めている。車椅子、杖、自立の方の危険排除に努めている。		